

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102807
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあんじゅ
所在地	松山市安城寺町1498番
自己評価作成日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・本人・ご家族の思いや希望を大切に第二の棲家で安心し・楽しく生活できるよう支援している。
 ・職員のチームワークを大切に笑顔が自然と溢れ、楽しく仕事できるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は床暖房が全体に敷かれた木造平屋建てで、田園に囲まれて静かで季節の移り変わりを感じながら穏やかに過ごすことができている。経営母体は病院や特別養護老人ホームや多数のサービス事業所を持ち、法人全体の委員会や行事も充実している。管理者は利用者・家族から「利用してよかった。」と満足していただけるように、また選んでもらえるグループホーム作りに積極的に取り組んでいる。そのためには、職員一人ひとりのレベルアップを図り、ケアにムラがないことが重要と考え、明るく元気な職員とともに日々奮闘している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームあんじゅ
(ユニット名)	いこい
記入者(管理者)	
氏名	徳永多美
評価完了日	H25 年 4 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・独自の理念を作成し、職員全員で共有し日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 6年前に職員全員で理念を見直し、「お互いを認め合い・笑顔が自然に出る、馴染みの関係作り。その人らしい生活を送り、安らげる環境作り。地域住民・ご家族とのつながりを大切にする。」という事業所独自の理念を作成している。毎年度末に理念について話し合いを行い、見直しを検討している。理念はユニット毎に掲示し、毎月のユニット会や勉強会で職員全員で共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・ボランティア委員会を通して地域清掃への参加 ・運営推進会議で得た地域の行事等への参加	
			(外部評価) 法人内でボランティア委員会を設け、地域住民から行事等の情報を得ている。夏と秋に開催する「川狩り」という祭りに利用者と一緒に参加したり、聾学校や近隣の中学校の少年式や入学式、卒業式などに参加したりして地域との交流をしている。また、利用者が作成した作品を銀行のロビーに出展したり、事業所の夕涼み会では法人の畑で作った野菜を販売するなど、地域ぐるみのイベントとなっており、地域住民の参加協力を得て開催し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・現在そのような機会がないが、今後認知症の人の理解や支援の方法を地域の方たちに向けて活かせる場を作りたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>・2ヶ月に1回開催し、情報交換等を行っているが、意 見に対しては前向きに検討し、サービス向上に活か している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は地域住民、民生委員、市担当者、地域 包括支援センター職員、家族等の参加を得て、2か 月に1回開催している。会議録は家族会で配布し報 告したり、職員に回覧し活用している。会議の議題 により、警察署員や消防署員の参加を得て開催す る工夫をしているが、参加者が固定化しており積 極的な意見交換とまでには至っていない。</p>	<p>会議を行事や家族会に合わせて開催するなど、地 域の中心的な立場の方や家族を加えて開催するこ とを望みたい。また、職員も交代で参加できるよ うにする工夫をするなど、多方面からの積極的な 意見交換を行い、出された意見をサービス向上に 活かしていけるような会議となることを期待し たい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>・運営推進会議に参加をして頂き、事業所の実 情等積極的に伝え情報を得ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市担当者は運営推進会議に毎回参加しており、 事業所の報告や意見交換、感染症等の情報を得 ている。市担当者にはFAXで定期的に事業所の 状況報告を行ったり、電話で相談したりするな ど協力関係が築かれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>・マニュアルを作成し、職員全員で理解し取 り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>身体拘束についてマニュアルを作成して、年1 回の勉強会やユニット会で話し合いをしてい る。日頃から管理者は、ケアの中で身体拘束 に繋がる対応など気づいたことや身体拘束の 捉え方の違いなどを職員に提議して話し合 い見直しをしている。利用者の安全面を考 え、布団がずれるためベッド柵をつけていた ことがあるが、話し合いをして解決したことが ある。言葉による拘束についても、ミーティ ングで話し合い職員間で共有して実践して いる。また、玄関は施錠しておらず、利用者 は自由に出入りすることができ、自由な生活 が送れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待防止のついて正しい理解をし、見過ごすことなく注意し、防止に努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持ち、必要な方には説明するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居時十分な説明をする。 ・利用者・家族の不安や疑問に対して時間をとり説明し理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話を十分聞くようにしている。 ・ユニット会・カンファレンスを通し解決している。 ・意見箱の設置	
			(外部評価) 3か月毎の家族会や訪問時、ケアプランの説明時など、家族から直接に意見や要望を聞く機会が多く、自由に意見や要望が出し合えるように雰囲気や関係づくりを大切にしている。利用者からは日々の会話の中から要望を聞くように努めており、意見が出された場合は素早い対応に努め、内容によっては家族の意見を聞いて対応し、結果を利用者や家族に報告している。また、玄関に意見箱が設置され、意見を伝えることもできる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・年2回個人面談を実施し意見を聞いている。	
			(外部評価) 管理者は職員と年2回個人面談をしており、自由に意見を言うことができる。賞与の支給時には法人の事務長と面談を行い、事業所内で相談しにくいことを聞いたり、業務査定の評価結果などを伝えて支給している。また、昨年は職員一人ひとりの目標を立て、管理者が数か月後に目標達成状況を確認しながら、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見は職員ユニット会やミーティングで積極的に意見交換し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・安寿会全体で検討し働きやすい職場作りを目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持っている。 ・施設内の勉強会も計画し実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・現在地域連絡会議に参加し、同業者と交流を持ち、ネットワーク作りや勉強会実施に向けて検討中である。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・本人面談を行い、できる限り詳細な情報と状況を把握し信頼関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・運営規定・重要事項にそって当施設の内容を説明し、家族が困っていること・不安に思っていること・求めていることを理解するようにしている。 ・食事を一緒にしたり、宿泊できることを説明し職員の対応等をみてもらい安心につなげる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人・家族が望んでいることをケアプランに取り入れ実施する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方・料理（材料の切り方・味付け）を会話の中から学び一緒に実施する。 ・本人の希望にそった外出の実施（墓参り・自宅外出等）	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・ケアプランの活用（定期的な病院受診・理美容院への外出・墓参り・自宅への外出等）	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・本人・家族の意見を聞き行きたい場所に行ったり、会いたい人に会ったり、訪問してもらったりして支援に努めている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き取り把握している。また、日々の会話の中で聞き取った情報は記録して職員間で共有している。利用者の希望など聞き取った情報をもとに、職員から声かけをして馴染みの店や場所に出かけ、関係が途切れないように支援している。利用者の希望により、家族の協力を得て墓参りや戦友に会いに行ったり、同窓会や孫の結婚式に職員が同行して出席できるよう支援している。また、職員の異動がないため、利用者と馴染みの関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し入居者の性格・行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している。 ・仲の良い方がソファで会話したり、一緒に外出したり出来るよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・現在どのような生活を送られているか等ケアマネを通して情報を得たり、面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・一人一人の意向・希望を聞き実現できることは家族と相談し実行している。 ・一人一人の思いに立ったケアを目指している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活歴、食事形態、トイレ介助の様子、要望などを家族から入居時に「入居者情報共有シート」に記入してもらい確認し把握している。情報共有シートは一人ひとりの意向を分かりやすくまとめており、職員間で共有して日々のケアに活かしている。把握が困難な利用者は、日々の関わりの中で表情や態度等で汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを活用し、情報収集に努め職員間で共有しケアプランに取り入れ実施している。 ・入居者情報共有シートを作成し職員全員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・日々の状態を把握し、カルテへ記入（状態を共有） ・残されている能力を活かせる生活支援の実施（洗濯物たたみ・清掃・料理等）	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・ケアプラン立案時・月2回・3ヶ月・6ヶ月毎・変更時にモニタリングの実施 ・定期的な担当者会議の実施（本人・家族・ケアマネ・計画作成担当者が参加）	
			(外部評価) 利用者から日々の生活の中で聞き取ったことは、入居者情報共有シートにまとめ、介護計画に反映している。支援経過記録に分かりやすいよう色分けして、月2回モニタリングの記録をしている。6か月毎に家族を含む関係者で話し合いをして介護計画の見直しを行い、現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・記録は毎日個別記録に記入し職員間で共有している。 ・モニタリング時に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族宿泊・面会・外出・ユニット移動等、本人・家族の状況に応じ対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・運営推進会議へ民生委員・入居者・家族・近隣者・包括職員・市職員・職員で実施している。内容により、警察・消防・小中学校の先生に依頼する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・主治医・協力病院と連携を密に取り適切にアドバイ スや医療を受けている。 ・福角病院より月2回の訪問診療あり。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で、殆ど利用者が協力医を主 治医としている。月2回協力医の往診があり健康管理 をしている。家族の協力を得て専門医を受診するこ とができ、家族が行けない時は職員が同行して受診で きるよう支援している。受診や検査結果などは家族から 報告してもらい、主治医や家族、職員が共有してお り、連携を図り安心して医療が受けられるよう支援し ている。また、緊急時に家族へ連絡が取れない場合に 対応できるよう、入居時に家族に対応を確認してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・常勤職員に看護職員を配置し、常に連絡が取れ適切 なアドバイスをうけている。 ・日常の健康管理の徹底	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・入院された場合は、主治医と連携を密に取り情報交 換や相談をし早期退院に協力している。(面会に出来 るだけ頻回に行き、主治医と連携を取るようしてい る。)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・マニュアルを作成し、家族に説明し理解を得てい る。また職員全員で方針を共有している。	
			(外部評価) 事業所では2例の看取りを経験している。ターミナル ケアについてマニュアルを作成し、入居時に事業所と してできないことを説明しており、家族の 協力を得ることを含めて確認し同意を得ている。状態 の変化時にも、家族に再度確認して看取りを支援して いる。法人内のターミナル委員会で、3か月に1回勉 強会を実施し、利用者や家族の要望に沿って、安らか な最期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・定期的な勉強会の実施 ・看護職との連絡体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・マニュアルを作成し全職員が常に把握している。 ・避難訓練は、年2回（春は昼間想定・秋は夜間想定）実施 ・近隣への協力依頼 ・非常時備品の設置 (外部評価) 年2回、昼夜間を想定して避難訓練を実施しており、内1回は消防署の協力を得てアドバイスをもらっている。訓練では、消火訓練や通報、避難経路を確認している。消火設備や消火栓、スプリンクラーを設置し定期的に検査を行い非常事態に備えている。法人で委員会も持ち、タンスなどが倒れないよう固定するなどの地震対策を取っている。また、長靴やヘルメット、懐中電灯などの備品や、法人と一緒に食料品などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・日頃の会話時も十分配慮し会話している。 ・一人一人の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ・対応を心がけている。 (外部評価) 職員が居室に入る時は必ずノックと声かけをしている。トイレのドアを開けっ放しにしないよう心がけており、入浴時は利用者の羞恥心に配慮するなど注意して対応している。また、利用者を「ちゃん」付けで呼ぶことについて運営推進会議で話し合いをしたり、昔からの呼び方を家族に聞いて「うれしそうにしたら」同意を得て呼ぶようにしたりするなど、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたり解るよう説明をおこない、納得し暮らせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに対して耳を傾け、希望に添ったケアを実施している。 ・ケアプランの活用	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・馴染みの理美容院での散髪の実施 ・その人らしい身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人に合った食事の提供をおこなっている。 ・出来るときには、下準備・片付けを一緒にしている。	
			(外部評価) 各ユニット毎に職員が1週間交代で献立を立て調理をしている。一人ひとりの好みを入居者情報共有シートから把握したり、日々の会話の中から聞き取り献立に活かしている。利用者と職員が食卓を囲みながら、利用者同士の席の配置にも気を配り会話を楽しみながら食事をしている。自宅で使用していた食器や箸を持ってきている利用者もいる。苦手なメニューの時は利用者に合わせて代替品を用意したり、畑で採れた季節の野菜やいただき物をメニューに加えたり、外食や弁当を買って公園で食べるなど、食事が楽しめるよう工夫をしている。また、利用者は食器の片づけなどできることを自然に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時・10時・3時には、必ずコップ1杯の水分を摂ってもらう。(1日1500ml目標) ・摂取量のチェック表への記入	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施 ・必要に応じて歯科受診	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズに出来るよう支援している。 ・その人に合ったオムツの使用、オムツはずしに努力している。 <p>(外部評価)</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。職員との信頼関係を築き、こまめな声かけや気分を変えて排泄に集中できる環境作りなどをして、トイレで排泄できるようになった利用者やオムツから布パンツになった利用者があるなど、自立した排泄ができるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者があるなど、一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。また、排泄がスムーズに行えるよう水分補給に努め、センナ茶を飲んだり、運動をしたりするなどの工夫をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動・食事・水分補給に努め、排便がスムーズに出来るよう支援している。 ・内服薬の調整 ・毎日のチェックし記録している。 	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏は週3回・冬は週2回実施 ・なるべくその人の希望の時間帯や回数を聞き実施できる工夫をしている。 ・季節に応じた入浴の工夫（ゆず湯等） <p>(外部評価)</p> <p>夏期は週3回、冬季は週2回を基本として利用者の要望に合わせて入浴することができる。また、同性介助を希望にも対応している。入浴が苦手な利用者には無理強いをせず、声かけやタイミングに工夫して支援している。時間をかけて信頼関係を作りシャワー浴ができるようになった利用者もいる。季節に合わせてゆず湯や入浴剤を入れたり、昔ながらの固形石けんを使用するなど入浴が楽しめるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人あった時間に就寝し、起きてもらうよう配慮している。 ・1時間毎の巡回実施（利用者の安眠を妨げないようおこなう） ・自由に各居室に帰り休憩してもらう。介助の必要な方は、職員が配慮する。 	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・内服薬の内容を全職員が把握している。 ・服薬確認は職員がおこなう。 ・必要に応じ医師に指示を受ける。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・情報を元に一人一人の力が発揮できるよう役割をみつける。(洗濯干し・たたみ・材料切り・食器洗い・片付け・清掃等) ・本人が参加したいと思うレク活動への参加(詩吟・お花等) ・外食・ドライブは希望に応じて実施	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・本人の希望に応じ一緒に買い物に行く。 ・個々の散歩も自由に実施している。 (外部評価) 日頃から事業所の中庭に植えているトマトの水やりや職員と一緒にゴミ捨て、職員が見守りながら事業所の周りを散歩するなど外出支援をしている。利用者の希望により、家族や知人と外出したり、ドライブに出かけて気分転換を図っている。事業所の負担で、隣接するデイサービスにリハビリや気分転換のため通えるように支援しており、事業所独自の工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時力に応じて自分で管理し、支払うよう支援している。 ・喫茶あんの利用(自己負担金より支払う)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・自分で出来る方は、職員が見守りおこなう。話だけしたい方は、職員が介助する。 ・手紙に関しては、必要に応じ職員がかかわる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・室内・リビング等、カーテンやレースカーテンは光や音に配慮している。 ・リビングには、季節に応じた飾り付けをし居心地よく生活できるよう工夫している。	
			(外部評価) 各ユニット毎に畳スペースがあり、堀りごたつに足をを入れて話をしたり、家族の訪問時には団らんのスペースとして利用している。冬場はこたつ布団をかけ、暖かい家庭的な雰囲気となっている。また、周りにはソファやテーブルを配置しており、利用者の思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。壁には季節の飾りつけや行事の写真を飾り穏やかに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・一人一人が自分の時間を大切にし、仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・居室には、馴染みの家具を持参してもらい馴染みの写真や絵やトロフィー等を飾ってもらうことで、居心地よく生活してもらうよう工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコンを備え付けている。ベッドは2種類あり身体状況や好みに合わせて選択できるようにしている。居室には使い慣れた布団や枕、馴染みのテーブル、テレビ、鏡、位牌等を自由に持ち込むことができ、利用者と家族が相談しながら、配置に工夫して落ち着いて居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・廊下には手摺りの設置 ・バリアフリー作り・出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり。 ・見やすいカレンダーの設置	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102807
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあんじゅ
所在地	松山市安城寺町1429番
自己評価作成日	平成 25 年 4 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・本人・ご家族の思いや希望を大切にし第二の棲家で楽しく生活が送れるよう支援している。 ・職員のチームワークを大切に笑顔が自然と溢れ、楽しく仕事できるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は床暖房が全体に敷かれた木造平屋建てで、田園に囲まれて静かで季節の移り変わりを感じながら穏やかに過ごすことができている。経営母体は病院や特別養護老人ホームや多数のサービス事業所を持ち、法人全体の委員会や行事も充実している。管理者は利用者・家族から「利用してよかった。」と満足していただけるように、また選んでもらえるグループホーム作りに積極的に取り組んでいる。そのためには、職員一人ひとりのレベルアップを図り、ケアにムラがないことが重要と考え、明るく元気な職員とともに日々奮闘している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあんじゅ

(ユニット名) なごみ

記入者(管理者)
氏名 大井田洋子

評価完了日 H25年 4月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・独自の理念を作成し、職員全員で共有し日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 6年前に職員全員で理念を見直し、「お互いを認め合い・笑顔が自然に出る、馴染みの関係作り。その人らしい生活を送り、安らげる環境作り。地域住民・ご家族とのつながりを大切にする。」という事業所独自の理念を作成している。毎年度末に理念について話し合いを行い、見直しを検討している。理念はユニット毎に掲示し、毎月のユニット会や勉強会で職員全員で共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・ボランティア委員会を通して地域清掃への参加 ・運営推進会議で得た地域の行事等への参加	
			(外部評価) 法人内でボランティア委員会を設け、地域住民から行事等の情報を得ている。夏と秋に開催する「川狩り」という祭りに利用者と一緒に参加したり、聾学校や近隣の中学校の少年式や入学式、卒業式などに参加したりして地域との交流をしている。また、利用者が作成した作品を銀行のロビーに出展したり、事業所の夕涼み会では法人の畑で作った野菜を販売するなど、地域ぐるみのイベントとなっており、地域住民の参加協力を得て開催し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・現在そのような機会がないが、今後認知症の人の理解や支援の方法を地域の方たちに向けて活かせる場を作りたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>・2ヶ月に1回開催し、情報交換等を行っているが、意 見に対しては前向きに検討し、サービス向上に活か している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は地域住民、民生委員、市担当者、地域 包括支援センター職員、家族等の参加を得て、2か 月に1回開催している。会議録は家族会で配布し報告 したり、職員に回覧し活用している。会議の議題によ り、警察署員や消防署員の参加を得て開催する工夫 をしているが、参加者が固定化しており積極的な意見 交換とまでには至っていない。</p>	会議を行事や家族会に合わせて開催するなど、地域の 中心的な立場の方や家族を加えて開催することを望み たい。また、職員も交代で参加できるようにする工夫 をするなど、多方面からの積極的な意見交換を行い、 出された意見をサービス向上に活かしていけるよう な会議となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>・運営推進会議に参加をして頂き、事業所の実情等積 極的に伝え情報を得ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市担当者は運営推進会議に毎回参加しており、事業所 の報告や意見交換、感染症等の情報を得ている。市担 当者にはF A Xで定期的に事業所の状況報告を行っ たり、電話で相談したりするなど協力関係が築かれて いる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>・マニュアルを作成し、職員全員で理解し取り組んで いる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>身体拘束についてマニュアルを作成して、年1回の勉 強会やユニット会で話し合いをしている。日頃から管 理者は、ケアの中で身体拘束に繋がる対応など気づ いたことや身体拘束の捉え方の違いなどを職員に提議 して話し合い見直しをしている。利用者の安全面を考 え、布団がずれるためベッド柵をつけていたことがあ るが、話し合いをして解決したことがある。言葉によ る拘束についても、ミーティングで話し合い職員間で 共有して実践している。また、玄関は施錠しておら ず、利用者は自由に出入りすることができ、自由な生 活が送れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待防止のついて正しい理解をし、見過ごすことなく注意し、防止に努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持ち、必要な方には説明するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居時十分な説明をする。 ・利用者・家族の不安や疑問に対して時間をとり説明し理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話を十分聞くようにしている。 ・ユニット会・カンファレンスを通し解決している。 ・意見箱の設置	
			(外部評価) 3か月毎の家族会や訪問時、ケアプランの説明時など、家族から直接に意見や要望を聞く機会が多く、自由に意見や要望が出し合えるように雰囲気や関係づくりを大切にしている。利用者からは日々の会話の中から要望を聞くように努めており、意見が出された場合は素早い対応に努め、内容によっては家族の意見を聞いて対応し、結果を利用者や家族に報告している。また、玄関に意見箱が設置され、意見を伝えることもできる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・年2回個人面談を実施し意見を聞いている。	
			(外部評価) 管理者は職員と年2回個人面談をしており、自由に意見を言うことができる。賞与の支給時には法人の事務長と面談を行い、事業所内で相談しにくいことを聞いたり、業務査定の評価結果などを伝えて支給している。また、昨年は職員一人ひとりの目標を立て、管理者が数か月後に目標達成状況を確認しながら、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見は職員ユニット会やミーティングで積極的に意見交換し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・安寿会全体で検討し働きやすい職場作りを目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持っている。 ・施設内の勉強会も計画し実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・現在地域連絡会議に参加し、同業者と交流を持ち、ネットワーク作りや勉強会実施に向けて検討中である。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・本人面談を行い、できる限り詳細な情報と状況を把握し信頼関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・運営規定・重要事項にそって当施設の内容を説明し、家族が困っていること・不安に思っていること・求めていることを理解するようにしている。 ・食事を一緒にしたり、宿泊できることを説明し職員の対応等をみてもらい安心につなげる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人・家族が望んでいることをケアプランに取り入れ実施する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方・料理（材料の切り方・味付け）を会話の中から学び一緒に実施する。 ・本人の希望にそった外出の実施（墓参り・自宅外出等）	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・ケアプランの活用（定期的な病院受診・理美容院への外出・墓参り・自宅への外出等）	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・本人・家族の意見を聞き行きたい場所に行ったり、会いたい人に会ったり、訪問してもらったりして支援に努めている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き取り把握している。また、日々の会話の中で聞き取った情報は記録して職員間で共有している。利用者の希望など聞き取った情報をもとに、職員から声かけをして馴染みの店や場所に出かけ、関係が途切れないように支援している。利用者の希望により、家族の協力を得て墓参りや戦友に会いに行ったり、同窓会や孫の結婚式に職員が同行して出席できるよう支援している。また、職員の異動がないため、利用者と馴染みの関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し入居者の性格・行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している。 ・仲の良い方がソファで会話したり、一緒に外出したり出来るよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・現在どのような生活を送られているか等ケアマネを通して情報を得たり、面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・一人一人の意向・希望を聞き実現できることは家族と相談し実行している。 ・一人一人の思いに立ったケアを目指している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活歴、食事形態、トイレ介助の様子、要望などを家族から入居時に「入居者情報共有シート」に記入してもらい確認し把握している。情報共有シートは一人ひとりの意向を分かりやすくまとめており、職員間で共有して日々のケアに活かしている。把握が困難な利用者は、日々の関わりの中で表情や態度等で汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを活用し、情報収集に努め職員間で共有しケアプランに取り入れ実施している。 ・入居者情報共有シートを作成し職員全員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・日々の状態を把握し、カルテへ記入（状態を共有） ・残されている能力を活かせる生活支援の実施（洗濯物たたみ・清掃・料理等）	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・ケアプラン立案時・月2回・3ヶ月・6ヶ月毎・変更時にモニタリングの実施 ・定期的な担当者会議の実施（本人・家族・ケアマネ・計画作成担当者が参加）	
			(外部評価) 利用者から日々の生活の中で聞き取ったことは、入居者情報共有シートにまとめ、介護計画に反映している。支援経過記録に分かりやすいよう色分けして、月2回モニタリングの記録をしている。6か月毎に家族を含む関係者で話し合いをして介護計画の見直しを行い、現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・記録は毎日個別記録に記入し職員間で共有している。 ・モニタリング時に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族宿泊・面会・外出・ユニット移動等、本人・家族の状況に応じ対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・運営推進会議へ民生委員・入居者・家族・近隣者・包括職員・市職員・職員で実施している。内容により、警察・消防・小中学校の先生に依頼する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・主治医・協力病院と連携を密に取り適切にアドバイ スや医療を受けている。 ・福角病院より月2回の訪問診療あり。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で、殆ど利用者が協力医を主 治医としている。月2回協力医の往診があり健康管理 をしている。家族の協力を得て専門医を受診するこ とができ、家族が行けない時は職員が同行して受診で きるよう支援している。受診や検査結果などは家族から 報告してもらい、主治医や家族、職員が共有してお り、連携を図り安心して医療が受けられるよう支援し ている。また、緊急時に家族へ連絡が取れない場合に 対応できるよう、入居時に家族に対応を確認してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・常勤職員に看護職員を配置し、常に連絡が取れ適切 なアドバイスをうけている。 ・日常の健康管理の徹底	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・入院された場合は、主治医と連携を密に取り情報交 換や相談をし早期退院に協力している。(面会に出来 るだけ頻回に行き、主治医と連携を取るようしてい る。)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・マニュアルを作成し、家族に説明し理解を得てい る。また職員全員で方針を共有している。	
			(外部評価) 事業所では2例の看取りを経験している。ターミナル ケアについてマニュアルを作成し、入居時に事業所と してできることできないことを説明しており、家族の 協力を得ることを含めて確認し同意を得ている。状態 の変化時にも、家族に再度確認して看取りを支援して いる。法人内のターミナル委員会で、3か月に1回勉 強会を実施し、利用者や家族の要望に沿って、安らか な最期が迎えられよう支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・定期的な勉強会の実施 ・看護職との連絡体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・マニュアルを作成し全職員が常に把握している。 ・避難訓練は、年2回（春は昼間想定・秋は夜間想定）実施 ・近隣への協力依頼 ・非常時備品の設置 (外部評価) 年2回、昼夜間を想定して避難訓練を実施しており、内1回は消防署の協力を得てアドバイスをもらっている。訓練では、消火訓練や通報、避難経路を確認している。消火設備や消火栓、スプリンクラーを設置し定期的に検査を行い非常事態に備えている。法人で委員会も持ち、タンスなどが倒れないよう固定するなどの地震対策を取っている。また、長靴やヘルメット、懐中電灯などの備品や、法人と一緒に食料品などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・日頃の会話時も十分配慮し会話している。 ・一人一人の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ・対応を心がけている。 (外部評価) 職員が居室に入る時は必ずノックと声かけをしている。トイレのドアを開けっ放しにしないよう心がけており、入浴時は利用者の羞恥心に配慮するなど注意して対応している。また、利用者を「ちゃん」付けで呼ぶことについて運営推進会議で話し合いをしたり、昔からの呼び方を家族に聞いて「うれしそうにしたら」同意を得て呼ぶようにしたりするなど、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたり解るよう説明をおこない、納得し暮らせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに対して耳を傾け、希望に添ったケアを実施している。 ・ケアプランの活用	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・馴染みの理美容院での散髪の実施 ・その人らしい身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人に合った食事の提供をおこなっている。 ・出来るときには、下準備・片付けを一緒にしている。	
			(外部評価) 各ユニット毎に職員が1週間交代で献立を立て調理をしている。一人ひとりの好みを入居者情報共有シートから把握したり、日々の会話の中から聞き取り献立に活かしている。利用者と職員が食卓を囲みながら、利用者同士の席の配置にも気を配り会話を楽しみながら食事をしている。自宅で使用していた食器や箸を持ってきている利用者もいる。苦手なメニューの時は利用者に合わせて代替品を用意したり、畑で採れた季節の野菜やいただき物をメニューに加えたり、外食や弁当を買って公園で食べるなど、食事が楽しめるよう工夫をしている。また、利用者は食器の片づけなどできることを自然に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時・10時・3時には、必ずコップ1杯の水分を摂ってもらう。(1日1500ml目標) ・摂取量のチェック表への記入	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施 ・必要に応じて歯科受診	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズに出来るよう支援している。 ・その人に合ったオムツの使用、オムツはずしに努力している。 <p>(外部評価)</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。職員との信頼関係を築き、こまめな声かけや気分を変えて排泄に集中できる環境作りなどをして、トイレで排泄できるようになった利用者やオムツから布パンツになった利用者があるなど、自立した排泄ができるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者があるなど、一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。また、排泄がスムーズに行えるよう水分補給に努め、センナ茶を飲んだり、運動をしたりするなどの工夫をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動・食事・水分補給に努め、排便がスムーズに出来るよう支援している。 ・内服薬の調整 ・毎日のチェックし記録している。 	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏は週3回・冬は週2回実施 ・なるべくその人の希望の時間帯や回数を聞き実施できる工夫をしている。 ・季節に応じた入浴の工夫（ゆず湯等） <p>(外部評価)</p> <p>夏期は週3回、冬季は週2回を基本として利用者の要望に合わせて入浴することができる。また、同性介助を希望にも対応している。入浴が苦手な利用者には無理強いをせず、声かけやタイミングに工夫して支援している。時間をかけて信頼関係を作りシャワー浴ができるようになった利用者もいる。季節に合わせてゆず湯や入浴剤を入れたり、昔ながらの固形石けんを使用するなど入浴が楽しめるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人あった時間に就寝し、起きてもらうよう配慮している。 ・1時間毎の巡回実施（利用者の安眠を妨げないようおこなう） ・自由に各居室に帰り休憩してもらう。介助の必要な方は、職員が配慮する。 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・内服薬の内容を全職員が把握している。 ・服薬確認は職員がおこなう。 ・必要に応じ医師に指示を受ける。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・情報を元に一人一人の力が発揮できるよう役割をみつける。(洗濯干し・たたみ・材料切り・食器洗い・片付け・清掃等) ・本人が参加したいと思うレク活動への参加(詩吟・お花等) ・外食・ドライブは希望に応じて実施	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・本人の希望に応じ一緒に買い物に行く。 ・個々の散歩も自由に実施している。 (外部評価) 日頃から事業所の中庭に植えているトマトの水やりや職員と一緒にゴミ捨て、職員が見守りながら事業所の周りを散歩するなど外出支援をしている。利用者の希望により、家族や知人と外出したり、ドライブに出かけて気分転換を図っている。事業所の負担で、隣接するデイサービスにリハビリや気分転換のため通えるように支援しており、事業所独自の工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時力に応じて自分で管理し、支払うよう支援している。 ・喫茶あんの利用(自己負担金より支払う)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・自分で出来る方は、職員が見守りおこなう。話だけしたい方は、職員が介助する。 ・手紙に関しては、必要に応じ職員がかかわる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・室内・リビング等、カーテンやレースカーテンは光や音に配慮している。 ・リビングには、季節に応じた飾り付けをし居心地よく生活できるよう工夫している。	
			(外部評価) 各ユニット毎に畳スペースがあり、堀りごたつに足をを入れて話をしたり、家族の訪問時には団らんのスペースとして利用している。冬場はこたつ布団をかけ、暖かい家庭的な雰囲気となっている。また、周りにはソファやテーブルを配置しており、利用者の思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。壁には季節の飾りつけや行事の写真を飾り穏やかに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・一人一人が自分の時間を大切にし、仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・居室には、馴染みの家具を持参してもらい馴染みの写真や絵やトロフィー等を飾ってもらうことで、居心地よく生活してもらうよう工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコンを備え付けている。ベッドは2種類あり身体状況や好みに合わせて選択できるようにしている。居室には使い慣れた布団や枕、馴染みのテーブル、テレビ、鏡、位牌等を自由に持ち込むことができ、利用者と家族が相談しながら、配置に工夫して落ち着いて居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・廊下には手摺りの設置 ・バリアフリー作り・出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり。 ・見やすいカレンダーの設置	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102807
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあんじゅ
所在地	松山市安城寺町1498番
自己評価作成日	平成 25 年 4 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・本人・ご家族の思いや希望を大切に第二の棲家で安心し・楽しく生活できるようえんしている。
 ・職員のチームワークを大切に笑顔が自然と溢れ、楽しく仕事できるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は床暖房が全体に敷かれた木造平屋建てで、田園に囲まれて静かで季節の移り変わりを感じながら穏やかに過ごすことができている。経営母体は病院や特別養護老人ホームや多数のサービス事業所を持ち、法人全体の委員会や行事も充実している。管理者は利用者・家族から「利用してよかった。」と満足していただけるように、また選んでもらえるグループホーム作りに積極的に取り組んでいる。そのためには、職員一人ひとりのレベルアップを図り、ケアにムラがないことが重要と考え、明るく元気な職員とともに日々奮闘している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあんじゅ

(ユニット名) やすらぎ

記入者(管理者)
氏名 高橋幸子

評価完了日 H25年 4月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・独自の理念を作成し、職員全員で共有し日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 6年前に職員全員で理念を見直し、「お互いを認め合い・笑顔が自然に出る、馴染みの関係作り。その人らしい生活を送り、安らげる環境作り。地域住民・ご家族とのつながりを大切にする。」という事業所独自の理念を作成している。毎年度末に理念について話し合いを行い、見直しを検討している。理念はユニット毎に掲示し、毎月のユニット会や勉強会で職員全員で共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・ボランティア委員会を通して地域清掃への参加 ・運営推進会議で得た地域の行事等への参加	
			(外部評価) 法人内でボランティア委員会を設け、地域住民から行事等の情報を得ている。夏と秋に開催する「川狩り」という祭りに利用者と一緒に参加したり、聾学校や近隣の中学校の少年式や入学式、卒業式などに参加したりして地域との交流をしている。また、利用者が作成した作品を銀行のロビーに出展したり、事業所の夕涼み会では法人の畑で作った野菜を販売するなど、地域ぐるみのイベントとなっており、地域住民の参加協力を得て開催し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・現在そのような機会がないが、今後認知症の人の理解や支援の方法を地域の方たちに向けて活かせる場を作りたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>・2ヶ月に1回開催し、情報交換等を行っているが、意 見に対しては前向きに検討し、サービス向上に活か している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は地域住民、民生委員、市担当者、地域 包括支援センター職員、家族等の参加を得て、2か 月に1回開催している。会議録は家族会で配布し報告 したり、職員に回覧し活用している。会議の議題によ り、警察署員や消防署員の参加を得て開催する工夫 をしているが、参加者が固定化しており積極的な意見 交換とまでには至っていない。</p>	<p>会議を行事や家族会に合わせて開催するなど、地域 の中心的な立場の方や家族を加えて開催することを望 みたい。また、職員も交代で参加できるようにする工 夫をするなど、多方面からの積極的な意見交換を行 い、出された意見をサービス向上に活かしていけるよ うな会議となることを期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>・運営推進会議に参加をして頂き、事業所の実情等積 極的に伝え情報を得ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市担当者は運営推進会議に毎回参加しており、事業所 の報告や意見交換、感染症等の情報を得ている。市担 当者にはF A Xで定期的に事業所の状況報告を行っ たり、電話で相談したりするなど協力関係が築かれて いる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>・マニュアルを作成し、職員全員で理解し取り組んで いる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>身体拘束についてマニュアルを作成して、年1回の勉 強会やユニット会で話し合いをしている。日頃から管 理者は、ケアの中で身体拘束に繋がる対応など気づ いたことや身体拘束の捉え方の違いなどを職員に提 議して話し合い見直しをしている。利用者の安全面 を考え、布団がずれるためベッド柵をつけていたこ とがあるが、話し合いをして解決したことがある。言 葉による拘束についても、ミーティングで話し合い 職員間で共有して実践している。また、玄関は施錠 しておらず、利用者は自由に出入りすることができ 、自由な生活が送れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待防止のついて正しい理解をし、見過ごすことなく注意し、防止に努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持ち、必要な方には説明するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居時十分な説明をする。 ・利用者・家族の不安や疑問に対して時間をとり説明し理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話を十分聞くようにしている。 ・ユニット会・カンファレンスを通し解決している。 ・意見箱の設置	
			(外部評価) 3か月毎の家族会や訪問時、ケアプランの説明時など、家族から直接に意見や要望を聞く機会が多く、自由に意見や要望が出し合えるように雰囲気や関係づくりを大切にしている。利用者からは日々の会話の中から要望を聞くように努めており、意見が出された場合は素早い対応に努め、内容によっては家族の意見を聞いて対応し、結果を利用者や家族に報告している。また、玄関に意見箱が設置され、意見を伝えることもできる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・年2回個人面談を実施し意見を聞いている。	
			(外部評価) 管理者は職員と年2回個人面談をしており、自由に意見を言うことができる。賞与の支給時には法人の事務長と面談を行い、事業所内で相談しにくいことを聞いたり、業務査定の評価結果などを伝えて支給している。また、昨年は職員一人ひとりの目標を立て、管理者が数か月後に目標達成状況を確認しながら、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見は職員ユニット会やミーティングで積極的に意見交換し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・安寿会全体で検討し働きやすい職場作りを目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持っている。 ・施設内の勉強会も計画し実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・現在地域連絡会議に参加し、同業者と交流を持ち、ネットワーク作りや勉強会実施に向けて検討中である。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・本人面談を行い、できる限り詳細な情報と状況を把握し信頼関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・運営規定・重要事項にそって当施設の内容を説明し、家族が困っていること・不安に思っていること・求めていることを理解するようにしている。 ・食事を一緒にしたり、宿泊できることを説明し職員の対応等をみてもらい安心につなげる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人・家族が望んでいることをケアプランに取り入れ実施する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方・料理（材料の切り方・味付け）を会話の中から学び一緒に実施する。 ・本人の希望にそった外出の実施（墓参り・自宅外出等）	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・ケアプランの活用（定期的な病院受診・理美容院への外出・墓参り・自宅への外出等）	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・本人・家族の意見を聞き行きたい場所に行ったり、会いたい人に会ったり、訪問してもらったりして支援に努めている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き取り把握している。また、日々の会話の中で聞き取った情報は記録して職員間で共有している。利用者の希望など聞き取った情報をもとに、職員から声かけをして馴染みの店や場所に出かけ、関係が途切れないように支援している。利用者の希望により、家族の協力を得て墓参りや戦友に会いに行ったり、同窓会や孫の結婚式に職員が同行して出席できるよう支援している。また、職員の異動がないため、利用者と馴染みの関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し入居者の性格・行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している。 ・仲の良い方がソファで会話したり、一緒に外出したり出来るよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・現在どのような生活を送られているか等ケアマネを通して情報を得たり、面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・一人一人の意向・希望を聞き実現できることは家族と相談し実行している。 ・一人一人の思いに立ったケアを目指している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活歴、食事形態、トイレ介助の様子、要望などを家族から入居時に「入居者情報共有シート」に記入してもらい確認し把握している。情報共有シートは一人ひとりの意向を分かりやすくまとめており、職員間で共有して日々のケアに活かしている。把握が困難な利用者は、日々の関わりの中で表情や態度等で汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを活用し、情報収集に努め職員間で共有しケアプランに取り入れ実施している。 ・入居者情報共有シートを作成し職員全員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・日々の状態を把握し、カルテへ記入（状態を共有） ・残されている能力を活かせる生活支援の実施（洗濯物たたみ・清掃・料理等）	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・ケアプラン立案時・月2回・3ヶ月・6ヶ月毎・変更時にモニタリングの実施 ・定期的な担当者会議の実施（本人・家族・ケアマネ・計画作成担当者が参加）	
			(外部評価) 利用者から日々の生活の中で聞き取ったことは、入居者情報共有シートにまとめ、介護計画に反映している。支援経過記録に分かりやすいよう色分けして、月2回モニタリングの記録をしている。6か月毎に家族を含む関係者で話し合いをして介護計画の見直しを行い、現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・記録は毎日個別記録に記入し職員間で共有している。 ・モニタリング時に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族宿泊・面会・外出・ユニット移動等、本人・家族の状況に応じ対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・運営推進会議へ民生委員・入居者・家族・近隣者・包括職員・市職員・職員で実施している。内容により、警察・消防・小中学校の先生に依頼する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・主治医・協力病院と連携を密に取り適切にアドバイ スや医療を受けている。 ・福角病院より月2回の訪問診療あり。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で、殆ど利用者が協力医を主 治医としている。月2回協力医の往診があり健康管理 をしている。家族の協力を得て専門医を受診するこ とができ、家族が行けない時は職員が同行して受診で きるよう支援している。受診や検査結果などは家族から 報告してもらい、主治医や家族、職員が共有してお り、連携を図り安心して医療が受けられるよう支援し ている。また、緊急時に家族へ連絡が取れない場合に 対応できるよう、入居時に家族に対応を確認してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・常勤職員に看護職員を配置し、常に連絡が取れ適切 なアドバイスをうけている。 ・日常の健康管理の徹底	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・入院された場合は、主治医と連携を密に取り情報交 換や相談をし早期退院に協力している。(面会に出来 るだけ頻回に行き、主治医と連携を取るようしてい る。)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・マニュアルを作成し、家族に説明し理解を得てい る。また職員全員で方針を共有している。	
			(外部評価) 事業所では2例の看取りを経験している。ターミナル ケアについてマニュアルを作成し、入居時に事業所と してできないことを説明しており、家族の 協力を得ることを含めて確認し同意を得ている。状態 の変化時にも、家族に再度確認して看取りを支援して いる。法人内のターミナル委員会で、3か月に1回勉 強会を実施し、利用者や家族の要望に沿って、安らか な最期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・定期的な勉強会の実施 ・看護職との連絡体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・マニュアルを作成し全職員が常に把握している。 ・避難訓練は、年2回（春は昼間想定・秋は夜間想定）実施 ・近隣への協力依頼 ・非常時備品の設置 (外部評価) 年2回、昼夜間を想定して避難訓練を実施しており、内1回は消防署の協力を得てアドバイスをもらっている。訓練では、消火訓練や通報、避難経路を確認している。消火設備や消火栓、スプリンクラーを設置し定期的に検査を行い非常事態に備えている。法人で委員会も持ち、タンスなどが倒れないよう固定するなどの地震対策を取っている。また、長靴やヘルメット、懐中電灯などの備品や、法人と一緒に食料品などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・日頃の会話時も十分配慮し会話している。 ・一人一人の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ・対応を心がけている。 (外部評価) 職員が居室に入る時は必ずノックと声かけをしている。トイレのドアを開けっ放しにしないよう心がけており、入浴時は利用者の羞恥心に配慮するなど注意して対応している。また、利用者を「ちゃん」付けで呼ぶことについて運営推進会議で話し合いをしたり、昔からの呼び方を家族に聞いて「うれしそうにしたら」同意を得て呼ぶようにしたりするなど、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたり解るよう説明をおこない、納得し暮らせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに対して耳を傾け、希望に添ったケアを実施している。 ・ケアプランの活用	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・馴染みの理美容院での散髪の実施 ・その人らしい身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人に合った食事の提供をおこなっている。 ・出来るときには、下準備・片付けを一緒にしている。	
			(外部評価) 各ユニット毎に職員が1週間交代で献立を立て調理をしている。一人ひとりの好みを入居者情報共有シートから把握したり、日々の会話の中から聞き取り献立に活かしている。利用者と職員が食卓を囲みながら、利用者同士の席の配置にも気を配り会話を楽しみながら食事をしている。自宅で使用していた食器や箸を持ってきている利用者もいる。苦手なメニューの時は利用者に合わせて代替品を用意したり、畑で採れた季節の野菜やいただき物をメニューに加えたり、外食や弁当を買って公園で食べるなど、食事が楽しめるよう工夫をしている。また、利用者は食器の片づけなどできることを自然に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時・10時・3時には、必ずコップ1杯の水分を摂ってもらう。(1日1500ml目標) ・摂取量のチェック表への記入	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施 ・必要に応じて歯科受診	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズに出来るよう支援している。 ・その人に合ったオムツの使用、オムツはずしに努力している。 <p>(外部評価)</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。職員との信頼関係を築き、こまめな声かけや気分を変えて排泄に集中できる環境作りなどをして、トイレで排泄できるようになった利用者やオムツから布パンツになった利用者があるなど、自立した排泄ができるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者があるなど、一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。また、排泄がスムーズに行えるよう水分補給に努め、センナ茶を飲んだり、運動をしたりするなどの工夫をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動・食事・水分補給に努め、排便がスムーズに出来るよう支援している。 ・内服薬の調整 ・毎日のチェックし記録している。 	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏は週3回・冬は週2回実施 ・なるべくその人の希望の時間帯や回数を聞き実施できる工夫をしている。 ・季節に応じた入浴の工夫（ゆず湯等） <p>(外部評価)</p> <p>夏期は週3回、冬季は週2回を基本として利用者の要望に合わせて入浴することができる。また、同性介助を希望にも対応している。入浴が苦手な利用者には無理強いをせず、声かけやタイミングに工夫して支援している。時間をかけて信頼関係を作りシャワー浴ができるようになった利用者もいる。季節に合わせてゆず湯や入浴剤を入れたり、昔ながらの固形石けんを使用するなど入浴が楽しめるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人あった時間に就寝し、起きてもらうよう配慮している。 ・1時間毎の巡回実施（利用者の安眠を妨げないようおこなう） ・自由に各居室に帰り休憩してもらう。介助の必要な方は、職員が配慮する。 	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・内服薬の内容を全職員が把握している。 ・服薬確認は職員がおこなう。 ・必要に応じ医師に指示を受ける。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・情報を元に一人一人の力が発揮できるよう役割をみつける。(洗濯干し・たたみ・材料切り・食器洗い・片付け・清掃等) ・本人が参加したいと思うレク活動への参加(詩吟・お花等) ・外食・ドライブは希望に応じて実施	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・本人の希望に応じ一緒に買い物に行く。 ・個々の散歩も自由に実施している。 (外部評価) 日頃から事業所の中庭に植えているトマトの水やりや職員と一緒にゴミ捨て、職員が見守りながら事業所の周りを散歩するなど外出支援をしている。利用者の希望により、家族や知人と外出したり、ドライブに出かけて気分転換を図っている。事業所の負担で、隣接するデイサービスにリハビリや気分転換のため通えるように支援しており、事業所独自の工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時力に応じて自分で管理し、支払うよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・自分で出来る方は、職員が見守りおこなう。話だけしたい方は、職員が介助する。 ・手紙に関しては、必要に応じ職員がかかわる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・室内・リビング等、カーテンやレースカーテンは光や音に配慮している。 ・リビングには、季節に応じた飾り付けをし居心地よく生活できるよう工夫している。	
			(外部評価) 各ユニット毎に畳スペースがあり、堀りごたつに足をを入れて話をしたり、家族の訪問時には団らんのスペースとして利用している。冬場はこたつ布団をかけ、暖かい家庭的な雰囲気となっている。また、周りにはソファやテーブルを配置しており、利用者の思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。壁には季節の飾りつけや行事の写真を飾り穏やかに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・一人一人が自分の時間を大切にし、仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・居室には、馴染みの家具を持参してもらい馴染みの写真や絵やトロフィー等を飾ってもらうことで、居心地よく生活してもらうよう工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコンを備え付けている。ベッドは2種類あり身体状況や好みに合わせて選択できるようにしている。居室には使い慣れた布団や枕、馴染みのテーブル、テレビ、鏡、位牌等を自由に持ち込むことができ、利用者と家族が相談しながら、配置に工夫して落ち着いて居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・廊下には手摺りの設置 ・バリアフリー作り・出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり。 ・見やすいカレンダーの設置	